様式３－２

令和 5 年 10 月 1日

令和 5 年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間・最終 ）

音戸中学校区　校番　27　学校名　呉市立音戸小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★ 確かな学力	貫 （知） 「前より賢くなった！友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成	①児童が主体的に課題解決に取り組む授業つくりを進める。 ②表現力を育成する ③個に応じた指導を工夫し，基礎学力の定着を図る。	○単元末テストにおいて，平均点は低84%，中80%，高86%で，目標を達成することができた。思考力を問う問題や説明をすることに課題がある。 ○総合的な学習の時間や生活科を中心に課題発見・解決学習に取り組み，学習意識調査の肯定的評価は89%で目標を達成できた。 ○「以前と比べて自分のスピーチの言葉が増えたと思う」の肯定的評価は70%，「以前と比べて人前で話すときに自信がもてるようになったと思う」の肯定的評価は80%である。全学年で系統性を立て，ねらいをもってスピーチに取り組むことで意識が高まっている。 ○個に応じた課題別学習意識調査では，教職員は100%，児童は82%で目標を達成できた。タブレット学習（キュビナ）の活用や選択制家庭学習の実施をしている。一方，基礎基本の定着が不十分と考える。	○授業の振り返りやまとめを活用し，自分で分かったことを説明する時間を仕組む。 ○高学年では，新聞の記事に対する意見を書く活動を月１回行う。 ○継続して研究授業を行い，児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりについて教職員全員で考え実践していく。 ○話型を示すことで，スピーチの方法を知るとともに伝わる言葉に焦点を当てて指導をしていく。 ○スピーチの2学期の計画を立てることで，より意識して計画的に子どもたちの力を付けていく。 ○選択制家庭学習では，コースを見直し基礎基本の定着を図る。
★★ 豊かな心	（徳） 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成	④他のよさを認め合い，自尊感情，自己有用感を向上させる。 ⑤地域の人・もの・ことと関わり，活用し，感謝・貢献する意識を醸成する。	○挨拶に関しては，児童88%，保護者87%と意識調査の数値的には達成できているが，実際の生活を見てみると，自分から挨拶をしなかったり，声が小さかったりと，課題はまだ多い。 ○児童の意識調査では，自分のいい所，自慢できる所がある児童が68%と，数値的にも自尊感情は高いとは言えない。縦割り班活動を行う回数が少ないことも課題である。 ○親切さんありがとうボックスの活用が不十分である。主体的に取り組めるようにする教師側からのしかけが課題である。 ○地域の方に来ていただく活動，地域に出向く活動等，どの学年も1回はできているが，音戸の自慢できるところを言える児童の割合は，78%だった。学習内容が受動的で児童の主体的な学びになっていない点があることが課題である。	○挨拶名人キャンペーンを実施し，できている児童を教職員全員で認めていく。 ○「親切さんありがとう」の活動で，給食放送の時間などを使って親切な行動をした児童を紹介する。 ○縦割り班で掃除を行う等，他学年との交流の中で活躍できる機会を増やす。また計画委員会が中心の「自分自慢大会」を実施する。 ○親切な行動をする児童を教職員も積極的に伝えられるように，教職員用の紹介コーナーを設置する。 ○生活科，総合的な学習の時間で，児童の発想や願いを生かした主体的に学んでいく深まりのある単元づくりをしたり，貢献的な活動を実施したりしていきたい。
★ 健やかな心身	（体） 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成	⑥基本的な生活習慣の確立を図る。 ⑦児童の運動意欲を高め，体力づくりを推進する。 ⑧児童の防災意識を高める。	○平日のメディアのきまり1時間以内を守ることができていた児童の割合は，79.5%だった。提出が遅れたり，保護者からのコメントがなかったりする児童については，生活習慣に対する意識が低いので，メディアコントロールの重要性を繰り返し指導していく。 ○1学期に測定した50m走の結果は，全国，県平均を上回った児童は，37．3%だった。12月に再度計測し，4月の50m走の記録を更新させる児童の割合70%以上を目指す。 ○1学期末の児童の意識調査では，100%の児童が肯定的評価をした。 　他教科と関連させながら，防災や安全に関して，行動の仕方や災害等についてより理解が深まる指導ができた。	○スマートフォンやタブレットのネットの活用の仕方について外部講師を招聘し，学校・保護者・地域で学習会を開くとともに，小中一貫で取り組み，繰り返し指導していく。 ○走力を高めるため，走り方のフォームにポイントを絞り，体育朝会で指導し，全学年，体育の授業の準備運動で指導する。 ○音戸中学校と連携し，陸上記録会の練習を行う。 ○2学期は防災参観日を実施し，児童，保護者の防災意識を高めた。 　他教科と関連させながら，防災や安全に関して，理解が深まる指導をすすめる。
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮し，健康でやりがいを持って働くことができる教育環境の整備	⑨児童と向き合う時間の確保 ⑩長時間労働の縮減	○調査時において，67%の教職員が肯定的な回答をし，達成値は84%であった。昨年度より数値が下がった要因として，4年ぶりに行事が開催され，以前の資料を探り，改善しながら実施したことや，今年度導入された新しい校務支援システムへの対応で長時間割かれたことがあげられる。「月・木曜日以外の放課後の時間を確保すること」「学校行事後は学級事務の時間を確保すること」は効果的であった。 ○調査期間において，時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合は71%，達成値は82%であった。新たに赴任した教職員，初めての校務分掌を担当した教職員の勤務時間数が増えがちであった。	◎全教職員で意識して「児童と向き合う時間」を確保する。 ・学期末の時程の工夫を早めに行い，成績処理を計画的に進める。 ・打ち合わせ会，アンケートなど授業外でのICT活用を増やし，時間短縮を意識する。 ・生活や総合の計画など地域学習を見通しをもち，計画的に行う。 ・月・木以外は放課後の時間を確保するように努める。 ・行事の午後は児童と向き合う時間の確保に努める。